

## H23 農業部門 必須科目レビュー

### I 問題の回答案と解説

II-3 農村地域の活性化について、以下の文章と図から現状と課題を抽出し説明するとともに、その課題を中心として対応策を述べよ。

(図表はH21「食料・農業・農村白書」から引用)。

#### 【回答案】

農業農村地域の衰退を食い止めるためには、定住できる地域社会の構築が必要と考え、そのためには6次産業化の推進が必要と「食料・農業・農村基本計画」では謳っている。与えられた図表は、6次産業化の必要性を更に強調する材料として用いられたと考える。

図-1では、農村地域にも関わらず農家割合が20%不足と地域内の産業が農業以外で多数を占めていることが観察される。→それは域外での雇用に頼っている現状を表している。→仕事を求めて地域外への人口の流出が進展する。

→雇用に繋がる施策が必要。→生産ばかりでなく加工、流通といった2次、3次に繋がる雇用を創出すべき。→6次産業化の推進。

図-2では、日本人の飲食費が減少傾向にある中で、飲食費に占める国産の農林水産物の割合は10%僅かに上回る程度となっている。→国内産農産物の消費減少は農家の所得減少に繋がる。→農家離れを誘発。

→国産農産物の付加価値を高めることで帰属割合を向上させる取組が必要。→地域産物を使った新たな食品の開発、販売ルートの構築。→6次産業化の推進。

上記を受け課題を抽出してみよう。

#### 1、生産ばかりでなく加工、流通といった2次、3次に繋げるには

加工や販売についての知識・ノウハウ技術が必要である。そのためには、これらの技術を有する食品産業との連携が必要。→異業種・異分野との連携を如何にして進めるかが課題。

#### 2、地域産物を使った新たな取組

(1) 農産物はその殆どが季節品であり、旬を過ぎれば価格の下落が始まる。また、大手量販店では、規格の揃った大ロットでの取引が中心となるため、取引の対象とならない規格外品は廃棄されている。→これらの廃棄されて来た農産物を有用な地域資源として活用すべき。→地域の農産物を加工し如何にして付加価値を高めるかが課題。

(2) 地域産物の販路を拓げるためには、その地域をよく理解してもらうことが必要。→地域への来訪者を増やす取組が必要。→農業体験等を地域資源とした観光への取組を如何にして進めるかが課題。

#### 対応策

##### 1、異業種・異分野との連携

近年増加傾向にある外食・中食産業との連携を図り、消費者ニーズを捉えた加工・販売への取組を推進すべきである。そのためには、連携方法等のノウハウを有しない農業者のために、「食品連携コーディネーターバンク」を活用し、商品開発からマーケティングに至る専門分野の知見の供給を図る必要がある。

##### 2、農産物の付加価値向上策

規格外品等を活用した加工品の開発を促進すべきである。そのためには、自治体の試験研究機関等との連携による技術開発等を進める必要がある。なお、確保した収益をできるだけ農家に還元できるよう、設備投資をあまり必要としないものを中心に開発すべきである。それ意外のものについては、アウトソーシングを原則として取組むべきである。

### 3、観光への取組

地域への来訪者を増やし地域を理解してもらうことは消費を向上させるためには重要なファクターとなる。そのためには、農家の協力を得た農業体験の受け入れや、ツアー団体客の受け入れに対応できる飲食店や民宿の整備が必要である。また、来訪者のために農産物直販所を設置し、新鮮な野菜や加工品を販売することで相乗効果が期待できる。なお、これらに取り組むことにより、雇用創出効果も期待できる。

#### ハ、現状分析（例）

平成 22 年 3 月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では、農村地域の活性化策として農業・農村の 6 次産業化を推進することが挙げられている。その背景として、農村地帯にも関わらず農家割合が 20% 不足と地域内の産業が農業以外で多数を占めている。これからも明らかなように、域外での雇用に頼っている現状を表している。これは、仕事を求めて地域外への人口の流出が進展し、農村地帯が衰退することを示す。このことから、農業に連なって雇用を生み出すシステムの創出が必要であることを図-1 から伺える。

また、飲食費に占める国産の農林水産物の割合は 10% 僅かに上回る程度となっている。このことは、国産農産物に代わって安価な輸入農産物に国内市場を占有され、国産農産物が有効に活用されず、生産も下降、農業離れといった負のスパイラルに陥っていることを図-2 から推測される。そのため、国産農産物を有用な地域資源として活用するシステムを早急に構築することが必要である。

※課題から対応策、現状分析が対になるような構成を心がけることがポイント。

—以上— 次回は「東日本大震災の復旧復興」必須問題レビュー